

## 本の紹介

藤内智士著「変動が作る岩石たちの関係」

南の風社, 154p, 2023年7月12日発行

2,200円(税別), ISBN978-4-86202-120-5

日本地学教育学会の会員の藤内智士さんが、南の風社という晴れやかな名称の出版社から本を出された。

ここで紹介したい。

私が某巡検付き研究会で、最初に藤内さんと顔を合わせたのは彼がまだ学部4年生の頃だった。野球部があり、イガグリ頭で元気な学生さんであったことをよく記憶している。学部生の頃からの顔見知りが学位を取得し、職を得て、研究・教育に邁進するだけでなく、単著まで上梓するというできごとは、胸躍るイベントであり、心から祝福したい。

その藤内さん、数学・物理は得意であったが、ゼミ配属当初、地質学にはいろいろと違和感を感じたらしい。野外で卒業研究を進める上で面食らったことも多々あったようだ。

この本には、はじめ地質学に違和感を感じていた若者がそれを徐々に払拭し、馴染んでいったという感覚や経験が存分に生かされている。とくに、いわゆる体系的な論理的思考を好む学生が地質学と向き合ったときのつまづきポイントについて、丁寧に解説がなされている。

本書は理学部の学部生を対象とした「構造地質学」の講義の内容をまとめたものであるが、

1. 大陸は動いてきた
2. 地質調査になぜハンマーを持っていくのか？
3. 境界はどこだ！？ 決めるのはあなた！

の冒頭の三章は、構造地質学に限らず、野外で岩石や地層を観察することを研究テーマに選択した初学者には大変参考になるであろう。用語の解説、野外で露頭を観察する際の着目点が、彼が国内外で撮り溜めてきたカラーの露頭写真や味のある手描きイラストを贅沢に用いつつ懇切丁寧に書かれている。とくに野外での目の付け所は、伝統的にはあまり言語化されておらず、経験を積み重ねて各自学んでいくもの、という教育が

一般的であったように思う。藤内さんは最大限の注意をはらって、具体的な言葉で表現を試みている。

また、日常の出来事や風景を題材にしたたくみな比喻も本書のウリである。たとえば地層に含まれる化石を用いた年代決定の説明の場面では、「ここに一冊の古い週刊少年ジャンプがあったとします。その中に「ワンピース」と「るろうに剣心」が載っていたならば、そのジャンプは1997年34号から1999年43号までのどれかだということができます。」と見事に本質をついている。

上記のように、センスのよい比喻や例えが駆使されてはいるが、本書は「数式をいっさい使わず解説しました！」という書籍とは一線を画している。モデル化・定量化が適切だと思われる場面では、なるべく高校数学の範囲に収まるように配慮もしつつ、紙面を惜しまず数式をもちいた解説がなされている。結果的に、式を一つ一つ丁寧に追っかけていかないと理解した気分になれない層にも配慮した構成となっている。

実は、この藤内さんの本を読んだ私の恩師の一人がメールを送って下さった。そのメールは、「全国の大学教員は、それぞれ工夫しさまざまな方法で研究・教育に当たっているが、それら資料のほとんどはお蔵入りになっている。この藤内さんの例を見習い、みな率先して公表すべきだろう」（評者意識）という言葉で結ばれていた。仰る通りで、まさにそうすべきであるとは思いますが、これは言うは易く行うは難しの典型だろう。かなりの難事業であることは言うまでもない。藤内さんにとってももちろんそうであったはずだが、彼を鼓舞し、執筆の原動力となったのは、以前、姉が発した「岩石より、なすびの研究の方がわかりやすいよ」であったとのこと。ナスに勝るとも劣らない岩石の面白さをわかりやすく伝えるべく、授業の見える化を成し遂げた藤内さんに敬意を表したい。

(茨城大学 伊藤 孝)

2023.11.22 受付

2023.12.06 学会ニュースレーター公開

2023.12.05 学会ホームページ公開